

第1学年 国語科

1、教科の学習目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2、学習内容及び年間指導計画・各単元の学習のねらい

	学習内容および年間学習計画	学習のねらい
一学期	「朝のリレー」「野原はうたう」「シンジュン」「詩の世界」 「情報を整理して書こう」「漢字の組み立ての部首」 「ダイコンは大きな根?」「ちょっと立ち止まって」 「好きなことをスピーチで紹介する」 「指示する語句と接続する語句」「文法の扉1」	・学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち 300 字程度から 400 字程度までの漢字を読むことができるようにする。また、学年別漢字配当表の漢字のうち 900 字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができるようにする。 ・音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。
二学期	「大人になれなかった弟たちに…」 「星の花が降る頃に」 「方言と共通語」「漢字の音訓」「いろは歌」「文法の扉2」 『言葉』をもつ鳥、シジウカラ 「蓬莱の玉の枝—『竹取物語』から」	・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。 ・目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。 ・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。 ・根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
三学期	「故事成語」 『不便』の価値を見つめ直す 「少年の日の思い出」「随筆二編」「文法の扉3」 「さまざまな表現技法」「漢字の成り立ち」「さくらのほなびら」	・読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。 ・文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。

3、評価の観点と評価の方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現 (「話すこと・聞くこと」・「書くこと」・「読むこと」)	主体的に学習に取り組む態度
内容	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」・「書くこと」・「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものになっている。	言語を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものになしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使おうとしている。
方法	・中間テストや期末テストの結果に基づいて評価する。 ・授業中に机間指導等をして捉えた学習の取組の様子(発言、話し合い活動、ノート、ワークシートの記述内容等)などに基づいて評価する。	・中間テストや期末テストの結果に基づいて評価する。 ・授業での活動・取組(発言、話し合い活動、ノート、ワークシートの記述内容、作文、スピーチ、聞き取りテスト等)に基づき評価する。	・授業中に机間指導等をして捉えた学習の取組の様子、発言、ノートやワークシート等の記述内容などに基づいて評価する。

4、授業の受け方

- ◆授業をよく聴き、積極的にメモをしていく習慣をつける。
- ◆話し合い活動では「相手意識」「目的意識」をもって参加する。
- ◆授業で理解したことを復習して定着させていく。
- ◆ノート作りを大切にする(オリジナルノートの作成を)

5、学習の仕方

- ◆繰り返し音読する。
- ◆意味の分からない語句は辞書を引き調べる。
- ◆語彙力を増やす。
- ◆漢字練習プリント、ワークや問題演習に取り組む。
- ◆新出語句を使った短文を書く。
- ◆文章の要点を押さえ、要約する。
- ◆良い文章を視写する。(教科書の文章等)

第2学年 国語科

1、教科の学習目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2、学習内容及び年間指導計画・各単元の学習のねらい

	学習内容および年間学習計画	学習のねらい
一学期	「見えないだけ」「アイスプラネット」「枕草子」「漢字 1 熟語の構成」 「クマゼミ増加の原因を探る」「文法への扉 1 単語をどう分ける？」 「短歌に親しむ」「短歌を作ろう」「短歌を味わう」「言葉の力」 言葉 1 類義語・対義語・多義語	・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち 350 字程度から 450 字程度までの漢字を読むことができる。 また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
二学期	「盆土産」「字のない葉書」「言葉 2 敬語」 「漢字 2 同じ訓・同じ音をもつ漢字」「モアイは語る一地球の未来」 「思考のレッスン 2 根拠の吟味」「源氏と平家」「音読を楽しもう 平家物語」「扇的」「仁和寺にある法師―「徒然草」から」「漢詩の風景」	・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。 ・目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 ・伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係をなどを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。
三学期	「君は「最後の晩餐」を知っているか」「鑑賞文を書く」 「文法への扉 2 「用言の活用」」「走れメロス」 文法への扉 3 「付属語」言葉 3 話し言葉と書き言葉	・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 ・文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えることができる。

3、評価の観点と評価の方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現 (「話すこと・聞くこと」・「書くこと」・「読むこと」)	主体的に学習に取り組む態度
内容	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	「話すこと・聞くこと」・「書くこと」・「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を生活に役立て、言葉を適切に使おうとしている。
方法	・中間テストや期末テストの結果に基づいて評価する。 ・授業中に机間指導等をして捉えた学習の取組の様子(発言、話し合い活動、ノート、ワークシートの記述内容等)などに基づいて評価する。	・中間テストや期末テストの結果に基づいて評価する。 ・授業での活動・取組(発言、話し合い活動、ノート、ワークシートの記述内容、作文、スピーチ、聞き取りテスト等)に基づき評価する。	・授業中に机間指導等をして捉えた学習の取組の様子、発言、ノートやワークシート等の記述内容などに基づいて評価する。

4、授業の受け方

- ◆授業をよく聴き、積極的にメモをしていく習慣をつける。 ◆話し合い活動では「相手意識」「目的意識」をもって参加する。
- ◆授業で理解したことを復習して定着させていく。 ◆ノート作りを大切にする(自分なりのオリジナルノートの作成を)

5、学習の仕方

- ◆繰り返し音読する。 ◆意味の分からない語句は辞書を引き調べる。 ◆語彙力を増やす。 ◆漢字練習プリント、ワークや問題演習に取り組む。
- ◆新出語句を使った短作文を書く。 ◆文章の要点を押さえ、要約する。 ◆条件作文に挑戦する。(文字数制限)
- ◆良い文章を視写する。(教科書の文章等)

第3学年 国語科

1、教科の学習目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2、学習内容及び年間指導計画・各単元の学習のねらい

	学習内容および年間学習計画	学習のねらい
一学期	「握手」「学びて時に之を習ふ」「論語」から 「熟語の読み方」「作られた「物語」を超えて」 「文法への扉 1 文法を生かす」「俳句の可能性」 「俳句を味わう」「和語・漢語・外来語」	・第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れる。 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
二学期	「挨拶——原爆の写真によせて」「故郷」「人工知能との未来」 「説得力のある批評文を書く」「和歌の世界」 「音読を楽しもう 古今和歌集 仮名序」 「君待つと一万葉・古今・新古今」	・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。 ・目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。 ・目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。
三学期	「夏草——「おくのほそ道」から」「温かいスープ」 「わたしを束ねないで」	・文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。 ・文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。 ・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。

3、評価の観点と評価の方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現 (「話すこと・聞くこと」・「書くこと」・「読むこと」)	主体的に学習に取り組む態度
内容	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。	・「話すこと・聞くこと」・「書くこと」・「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を通して自己を向上させ、言葉を適切に使用している。
方法	・中間テストや期末テストの結果に基づいて評価する。 ・授業中に机間指導等をして捉えた学習の取組の様子(発言、話し合い活動、ノート、ワークシートの記述内容等)などに基づいて評価する。	・中間テストや期末テストの結果に基づいて評価する。 ・授業での活動・取組(発言、話し合い活動、ノート、ワークシートの記述内容、作文、スピーチ、聞き取りテスト等)に基づき評価する。	・授業中に机間指導等をして捉えた学習の取組の様子、発言、ノートやワークシート等の記述内容などに基づいて評価する。

4、授業の受け方

- ◆授業をよく聴き、積極的にメモをしていく習慣をつける。
- ◆話し合い活動では「相手意識」「目的意識」をもって参加する。
- ◆授業で理解したことを復習して定着させていく。
- ◆ノート作りを大切にする(自分なりのオリジナルノートの作成を)

5、学習の仕方

- ◆繰り返し音読する。
- ◆意味の分からない語句は辞書を引き調べる。
- ◆語彙力を増やす。
- ◆漢字練習プリント、ワークや問題演習に取り組む。
- ◆新出語句を使った短作文を書く。
- ◆文章の要点を押さえ、要約する。
- ◆条件作文に挑戦する。(文字数制限あり)
- ◆良い文章を視写する。(教科書の文章等)